

社会福祉事業史

FU31-2④-SC3-075

生活科学部 > 社会福祉学科
3年生
2単位 前期
実務経験あり
講義
選択
研究室：529（田中）

田中 涼

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

個人や家族、地域社会における生活課題・問題の課題解決を図るためのソーシャルポリシーについて理解する。

【授業の目標】

本授業は、現代の社会福祉の構造を批判的に捉える視点を涵養することを目的とする。そのため、国内外の社会福祉に関する思想及び実践、社会福祉政策の成立過程など、社会福祉の歴史を理解することを目指す。

【授業の内容及び方法】

国内と国外（主にイギリス）の社会福祉政策の動向について概説する。社会福祉政策の歴史とそこで生じている不条理な事象や権利侵害に対してソーシャルワーカーとしてどのように対処すべきかグループでディスカッションを行うことで理解を深めていく。その具体的な方法は、60分程度の講義を行い、その後webclassを活用して全体ディスカッションおよびリアクションを実施する。その際、法的倫理的に問題の生じない範囲で教員自身のソーシャルワーク実践についても有効に活用する。

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
本科目の目的・プログラム・成績評価方法などの説明を受け、理解する。
- 第 2 回 イギリスの社会福祉のあゆみ①
貧困問題の発生と救貧法、旧救貧法下の社会思想、新救貧法の成立、民間福祉部門の役割について理解する。
- 第 3 回 イギリスの社会福祉のあゆみ②
社会主義の台頭、貧困調査の意義、救貧法の廃止と擁護を巡る対立、社会立法の動きについて理解する。
- 第 4 回 イギリスの社会福祉のあゆみ③
ベヴァリッジ体制の確立、ベヴァリッジ体制の展開、パーソナル・ソーシャル・サービスの形成と展開について理解する。
- 第 5 回 イギリスの社会福祉のあゆみ④
コミュニティケア、ケアマネジメント導入、その他近年のイギリスにおける福祉改革について理解する。
- 第 6 回 日本の社会福祉のあゆみ①
第2次世界大戦前の慈善・社会事業について理解する。
- 第 7 回 日本の社会福祉のあゆみ②

第2次世界大戦後～1990年代の社会福祉について理解する。

- 第 8 回 日本の社会福祉のあゆみ③
2000年以降の社会福祉について、特に地域包括ケア（システム）について理解する。
- 第 9 回 日本の社会福祉のあゆみ④
2000年以降の社会福祉について、特に「地域福祉の政策化」と称される地域共生社会政策について理解する。
- 第 10 回 ソーシャルワークのあゆみ①
ソーシャルワークのもつ、個別支援と社会変革という二つの機能に焦点をあてながらソーシャルワーカーの専門職化の過程を理解する。
- 第 11 回 ソーシャルワークのあゆみ②
ソーシャルワークのグローバル定義の変遷をもとに、日本におけるソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の特徴を理解する。
- 第 12 回 グループ発表の準備①
第1回～第11回での学びについて、グループ単位で講義をするための準備をする。
- 第 13 回 グループ発表の準備②
第1回～第11回での学びについて、グループ単位で講義をするための準備をする。
- 第 14 回 グループ発表①
第12回～第13回で準備した内容をもとに、グループごとに講義を実施し、聴講する学生とディスカッションをする。
- 第 15 回 グループ発表②
第12回～第13回で準備した内容をもとに、グループごとに講義を実施し、聴講する学生とディスカッションをする。

【課題及び授業時間外の学習内容】

1・2年次の授業で活用した教科書・配布資料等をもとに、国内外の福祉政策、ソーシャルワークの歴史について復習して望むこと。

【授業の到達目標】

- ①国内の社会福祉に関する思想及び実践、社会福祉政策の成立過程について理解することができる。
- ②国外（主にイギリス）の社会福祉に関する思想及び実践、社会福祉政策の成立過程について理解することができる。
- ③国内外の社会福祉政策の成立過程を比較し、わが国における社会福祉政策の今後のあり方について考えることができる。

【履修上の注意・要望等】

本科目は、教育DX推進の指定科目であり、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を積極的に活用する。
担当教員より指定された電子デバイス（パソコン・タブレット・スマートフォン）を使用する必要がある。
グループワークやディスカッションにおいては積極的に参加する意識と姿勢を持つこと。

【授業外の学修（予習・復習等）について】

WebClassにアップロードした資料の読み込みや動画の視聴、資料や演習教材の作成を課題として課す場合がある。

〔アクティブ・ラーニングに関する事項〕

討議（ディスカッション、ディベート）、ICTを活用した双方向型授業、グループワーク、ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）、発表（プレゼンテーション）、反転授業

〔オープンな教育リソース（例：edx、Coursera、JMOOC等）〕

〔評価方法〕

レポート（70%）、グループ発表（20%）、授業態度（10%）により総合的に評価する。

レポートの詳細は第15回授業で説明する。グループ発表は、準備、発表、ディスカッションの内容や参加態度、積極性をもとに評価する。授業態度は、授業に向き合う姿勢、毎回の授業でwebclassへの入力を求めるディスカッションやリアクションへの取り組み状況をもって評価する。

〔評価のフィードバック方法〕

課題に対するフィードバックは成績評定をもってあてる。

〔教科書〕

なし。毎回プリントを配布する。

〔参考文献〕

金子光一（2005年）『社会福祉のあゆみ』,有斐閣

畑本裕介・木下武徳（2024）『これからの福祉政策 ローカルな視点から考える』,有斐閣

〔キーワード〕

福祉政策・社会福祉・イギリス・地方自治体・政府・貧困・社会的排除・若年層・正義論・ケイパビリティ・普遍主義・選別主義・ガバナンス・福祉計画・政策評価・福祉サービスの供給体制・相談支援・ローカルガバメント・自治体財政

〔免許・資格に関する情報〕